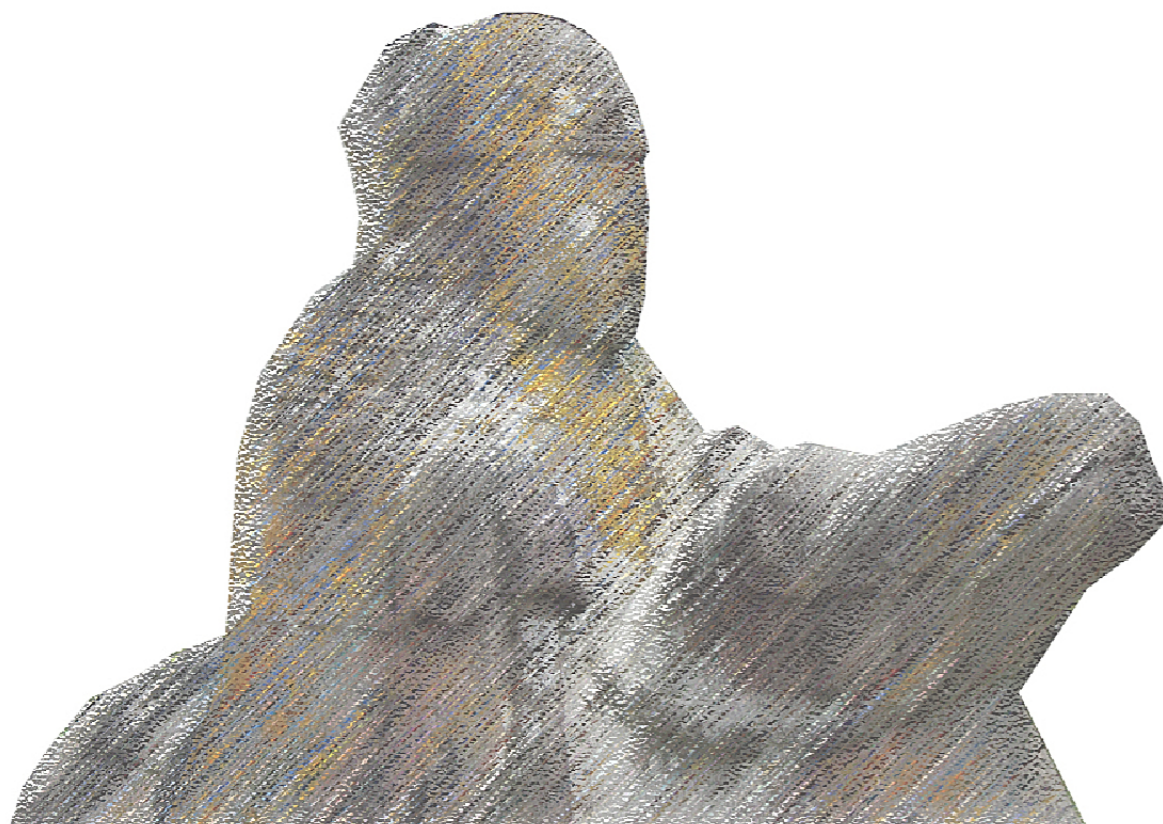


平成21年版

田中宿史跡巡り



■散策順路

1. 法務局の記念碑(田中コミュニティーセンター)
2. 豊川稲荷社(稲荷町)
3. 木戸・一里塚(田町)
4. 筆塚(田町)
5. 田中の勝軍地蔵(銀座)
6. 道路元標(銀座)
7. 東上館(中央)
8. いいなり地蔵のお堂(中央)
9. 薬師堂(中央)
10. 天神山

■順路図





① 法務局の記念碑 (現コミュニティホール敷地内)

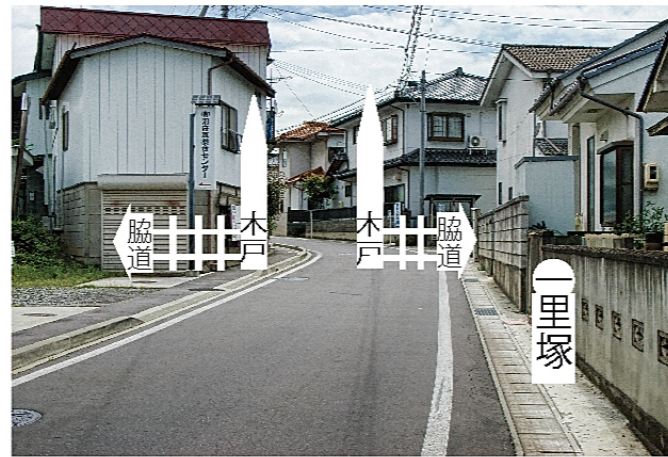
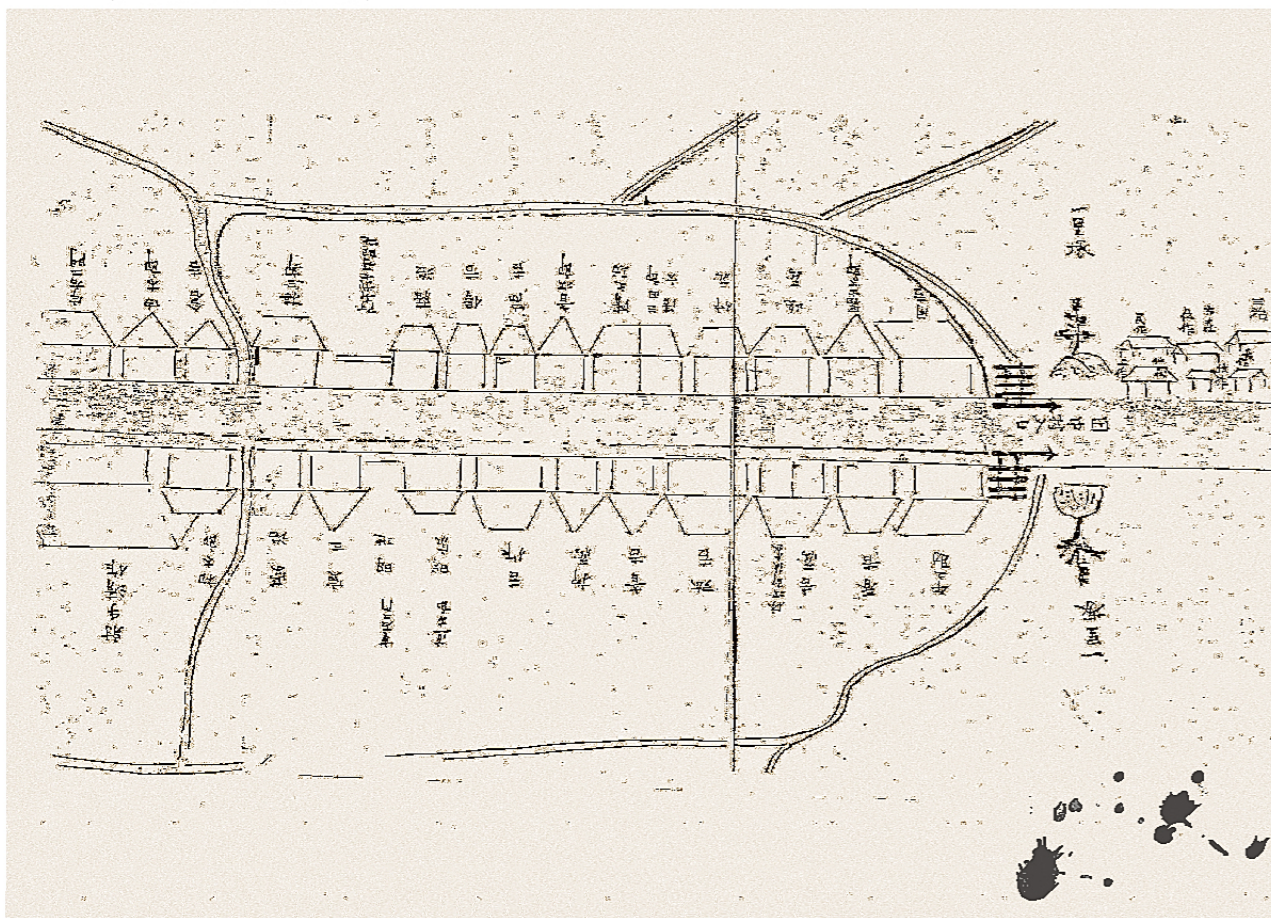
法務局は明治32年に駅前道りに開所。
その後大正13年6月9日に現在のコミュニティの
場所に移された。更に昭和55年3月18日に、田中小
学校東側に移され、平成16年4月上田支局に統合さ
れ、田中より無くなる。



② 豊川稲荷社 (稲荷町)

愛知県豊川稲荷神社より分社し昭和4年3月に建立。
※祝賀式は5月28日に行われた。
この時子供角力(相撲)が行われた。その後、月の
28日にお祭りが行なわれていた。
※稲荷神社の祀った理由は大正7年に祢津～田中
間に道路が開通し郡道と呼ばれるようになり、
通りが更に栄え、繁栄する様にと願ひ有志が分社
してきた。
※昭和28年町制施行時に稲荷町となる。

③ 木戸・一里塚 (起点は江戸日本橋)



③ 木戸・一里塚 (起点は江戸日本橋)

田中宿にあった一里塚は江戸から44番目で田町の旧
西の木戸横にあった。
※滋野牧家43番目
神川岩下45番目



④ 筆塚 (田町)

文化四丁末八月日
朝来玄月又は朝栄法師 八十七歳没
筆子 百十九人建立
◆村の若者に学問を教えた人の碑



⑤ 勝軍地蔵 (田中では愛宕様と呼ばれていた)

武装して騎乗した丸彫武人の背面に天明6年(1786)
台石に寛政5年(1793)と刻まれている。
勝軍地蔵は悪行や煩惱を破り勝つという仏様で、防火
神としても信仰され、江戸時代田中宿中で防火の為造
立したものであろう。馬上の武人波台座の彫刻は造形
的にもすぐれている。数回移転され、今回旧来の設置場
所近くに安置された。
※地蔵 天明6年10月日(背中には善光寺地蔵)
※台石 寛政5年12月 田中宿中



⑥ 道路元標 (FMとうみ向い 駅前信号脇)

各市町村と県庁との距離測定の起点としたもの。



⑦ 東上館 (中央 大塚様)

本宅～大正3年 木像3階建
蔵 ～大正9年
※明治27年和、東上田で製糸業を開業する。
大正7年、田中駅南側に移る。
昭和3年、山十(小口)に売り丸十製糸となる。
昭和6年、神栄製糸が買い現在に至る。
昭和55年、信越精密が一部を買う。



⑧-1 いいなり地蔵のお堂 (中央)

古くは室町時代に建立されたと言われているが銘がすれていて不明であるが寛永13年頃かもしれない。
お堂の中には庚申塔(板形)と大日如来、他に7体祀られているが、詳細は不明である。
現在はイボ取り地蔵と言われている。
山浦□□門菩提 建立之
寛永十三天八月吉日



⑧-2 いいなり地蔵 (中央)

この地蔵様は、室町時代に建立され、願い事は何でもきいて下さると言われ特に首から上の病をなおし 頭目耳の病気には実によく願いをきいてくれると言われ又、いぼのできた時は、お地蔵様の前から小さな小石をお借りしてきて、いぼを撫でると不思議にいぼがなくなってしまう言うことで治ると別にきれいな小石を洗い清めてお借りした石より多くて、御礼詣をする。いぼとりに実によく効くので一名いぼとり地蔵とも言われる。その他に子育て地蔵、兎らいものを抱いた地蔵様等数体合祀されております。



⑨-1 薬師堂 (本堂仁王尊)

寛文6年5月19日建立
薬師堂の庭に立つ二体の石造仁王像は、全国的にも類例が少なく貴重な遺品である。姿が雄大で見事な彫刻のうえに、赤く塗られ迫力がある。左がウノ像で明和3年の建立、右はア像でそれから30年後の寛政8年の造立、何れも雷電にまつわる伝説を秘めてる。

※明治初年に神仏分離が行われ廃寺となり長久寺が仏像佛具一切を引き取る。



⑨-2 薬師堂 (本尊)

庚申塔
寛文六丙午年正月十九日
二鶏・三猿・一尊種子と彫られている。



⑨-3 田中の男石 (薬師堂内男根石棒)

子宝・安産・縁結び
◆古くは宿場の鍵型通り(駅前信号機)にあった寺の羅漢堂境内にあったが明治時代張の為今の薬師堂(現仁王尊)に移された。初めは野ざらしであったが大正14～15年頃に社を建立し堂の中に納められた。



⑨-4 力石 (薬師堂内)

昔から重さ20貫(約75kg)と言われている。
膝まで・胸まで・肩までと上げて青年達が娯楽として力比べをして競い合った。
◆東御市の3力石
田中 20貫 (薬師堂内)
大石 36貫 (雷電道の駅)
海野 40貫500× (白鳥神社)



⑨-5 金比羅 (薬師堂内)

航路・水の神
文政8年、田中宿が建てる。
◆江戸時代より雨を降らせる神。農業の神として信仰されていた。



⑨-6 庚申塔
(薬師堂内)

健康・長寿の神
享保13年に建立
上～月・太陽
中～青面金剛像
下～鶏二・猿三 と彫られている。



⑨-7 延命地藏
(薬師堂内)

享保四年己亥三月二十四日、施主 田中宿



⑨-8 石尊大権現
(薬師堂内)

<大山講供養塔>
農耕の神 安永9年



⑨-9 地藏菩薩
(薬師堂内)

念仏供養～享保4年



⑨-10 供養塔 <光明真言塔婆>
(薬師堂内)

寛保2年、戊の満水が起り33回忌の安永3年に建立
<戊の満水とは>
今より268年前寛保2年7月27日から降り出した雨は8月1日まで激しく降り続いた。そのため北山(奈良原上)の山と池が崩壊し土石流となって、金井村を襲い東部中学校、法善寺付近を南下し常田・田中の宿場を一気に押し流し千曲川に流下する未曾有の大災害をひき起こした。このため多くの尊い人命が奪われた。宿場はその機能を失い隣の海野宿に移譲せざるを得ず、復旧するには60年の歳月を要した。



⑨-11 供養塔
(薬師堂内)

寛保2年、戊の満水の150年忌供養塔
水害から150年後の明治24年に建立。

◆田中宿 流失家屋 117戸
流死者 38名(男15 女23)



⑨-12 供養塔
(薬師堂内)

寛保2年、戊の満水の200年忌供養塔
水害から200年後の昭和16年8月1日に建立。
田中同士会



⑨-13 供養塔
(薬師堂内)

寛保2年、戊の満水の250年忌供養塔
水害から250年後の平成3年8月1日に建立。
田中区
※50年毎に供養塔を建てている。



⑨-14 お念仏の道具入れ箱 (薬師堂内)

天保12年、田中宿念仏講中がつられ、お念仏が始まる。昭和31年頃まで行われていた。



⑨-15 石仏 (薬師堂内)

道祖神祭りに持ち歩き回った。
小さな石の神様は獅子頭と一緒に持ち歩き回り、石仏にお粉を塗ってもらった。



⑨-16 書体道祖神 (薬師堂内)

昭和26年
寄贈者 石工 掛川工氏
天神町中程より移す。



⑩-1 天神山・神社神宮 (天神山)

八坂神社～神輿
天満宮～菅原道真
蚕影神社～養蚕
以前は国道18号線寄りにあった。



⑩-2 天満宮 (天神山)

学問の神様 菅原道真
毎年天神講に子供たちが習字を書いて奉納した。

◆社の彫刻・絵馬が見事である。
絵馬の奉納者 小田中氏(本陣)



⑩-3 蚕影神社 (天神山)

養蚕・農業の神様
明治に入り養蚕が盛んになり祈るようになる。



⑩-4 八坂神社の碑 (天神山)

<京都八坂神社の分社>
神輿の神(祭日は7月11日)
◆昭和12年に商工会で寄付金2,655円を集めて浅草から神輿一式を購入しお社と記念碑を建てる。
社には神輿、付属品が備えられている。
◆昭和13年以来、田中の祇園祭りが行われている。



⑩-5 戸隠碑 (天神山)

<天手力男命>
戸隠大権現 慶応3年
居中楷書 田中講中
農民信仰で江戸中期より盛んになる。
◆田中宿の坊は戸隠中社の水野である。



⑩-6 西宮大神宮 (天神山)

恵比寿の神 商売繁盛の神の2基
寛政8年
嘉永元年 (田中商工会)



⑩-7 神社・神宮群 (天神山)

左から稲荷社・稲荷社(赤色)・不明・不明・不明・
天満宮・不明



⑩-8 慰霊碑 (天神山)

明治38年 忠勇義魂 居中楷書

◆日露戦没戦死者の碑
田中藤之永 北森寅之助 宮下古光
岩下喜代入 宮崎堅吾 以上5名

⑩-a 天満宮彫刻 (天神山)



⑩-b 蚕影神社絵馬 (天神山)

